副専攻（実践ビジネス英語）プログラムの学生42名がカナダでのビジネス研修を修了しました。

2023年2月、副専攻プログラムの学生がカナダ西海岸のビクトリア市にあるロイヤルローズ大学での「海外ビジネス研修」を修了しました。
コロナ禍で過去2年間、現地での実施を見送っていましたが、今回はダニエル・パーラー准教授引率のもと、42名の学生を2班（2月5日～11日、2月12日～18日）に分けて実施。参加者全員が元気で帰国し、実り多い研修となりました。そこで、副専攻プログラムを主宰する言語センターの水野真木子センター長に話を聞きました。

文学部 英語英米文化学科 教授
言語センター
センター長　水野 真木子

カナダのブリティッシュ・コロンビア州にあるロイヤルローズ大学。カナダでも最も美しいキャンパスとして知られ、敷地からは海が一望できます。

女性リーダーシップの授業風景

各分野でグローバルに活躍できる英語力を身につける

副専攻プログラムは、在籍学科で修得する専門技能とグローバルビジネスの場で活躍できる高い英語力を併せ持つ学生の育成を目的に、2017年4月にスタート。入学直後に実施する英語試験の各学科上位者（合計30名まで、外国語を専門とする学科と看護学科を除く）を選抜し、夏期休暇と春期休暇の集中講義とオンライン英会話を中心に、TOEIC L&R テストのスコアアップを目指します。2年次の春期休暇にはカナダのロイヤル・ローズ大学が実施する「海外ビジネス研修」に参加。4年次には本格的な英文レポートを作成します。費用は海外研修も含め、全て大学が負担。修了生には大学から「副専攻プログラム」修了証が授与されます。

研修の成果を英語で発表する学生たち

ビジネス研修とホームステイで英語漬けの7日間

カナダでの海外研修では、ビジネス英語マナー研修をはじめ、インターナショナルホテル研修、グローバルツーリズム研修に加え、ボランティア研修、女性リーダーシップ研修など金城学院大学らしいプログラムも受講。最終日には、研修の成果をまとめて英語で発表し、修了証を授与されました。また、滞在期間中はホームステイを体験し、ホストファミリーとの交流を通して、英会話の実践と異文化交流を楽しみました。この貴重な経験を糧に英語力にさらに磨きをかけ、グローバル社会で活躍できる人材に育ってくれることを期待しています。

2019年度 修了生・卒業生の集いを開催！

2023年5月20日（土）午前10時から「2019年度 修了生・卒業生の集い」を開催しました。2019年度生は、新型コロナウイルス感染拡大の不安の中、学位記授与式が急遽中止となりました。「早い時点であらためて卒業式をいたします」と約束しながら、3年越し。ようやく開催できる運びとなりました。卒業生全員に案内を出し、予想以上の約600名の方々の出席を得ることができました。式後はHRで恩師や友人と歓談。久々の再会に、皆さんとても喜んでくださったとのことでした。（学長：小室尚子）

Kindergarten 金城学院幼稚園

保護者の方との連携で新たな遊びのコーナーが生まれました。

1972年に誕生した金城学院幼稚園は2022年に設立50周年を迎え、2022年、2023年の2年にわたり、さまざまな記念事業を行っています。その中から、保護者の方と一緒に生み出した新しい遊びのコーナーと、新たな取り組みをご紹介します。

みんな大好き！【バランスボールコーナー】

バランスボールコーナーは、名前の通り、バランスボールを楽しむ時間と空間。保護者の中にインストラクターをされている方がいらしたのをきっかけに生まれたコーナーで、子どもたちの運動への興味や関心が広がることを目的に、2022年11月から始まりました。

当初は年長児に限ってのコーナーでしたが、回を重ねるうちに、年中児や年少児、満3歳児の子どもたちも参加するようになりました。年長児から聞くバランスボールコーナーの話に期待が高まっていた年下の子どもたちは、一緒に参加できる日を心待ちにしていました。「今日はバランスボールがあるから行くんだ！」「私も行く！」という会話も聞かれるほど、毎回のバランスボールコーナーを子どもたちは楽しみにしています。

バランスボールに乗り、ボールの揺れに身体を合わせて、浮遊感のような感覚の心地よさを味わったり、音楽に合わせて手や腕を動かしてのダンスを楽しんだり。バランスボールに空気を入れる準備から、終わって空気を抜く片付けまでも、子どもたちは喜んでお手伝いしています。

大人のためのおしゃべりの場【エントランス de KINJOカフェ】

昨年の秋から始まった「エントランスde KINJOカフェ」は、エントランス北側にテーブルと椅子を置いたカフェスペース。登園で子どもたちを送ってきた帰りに、少しの時間、この場所でおしゃべり。保護者の方々が行っている有志の会のひとつ『園芸の会』では、花や木の手入れや植え替え時の休憩ティータイムに、また今後の計画を練る時にも、このスペースに皆さんが集まってお話しをされています。同様に有志の会である『賛美の会』の方々がここで練習をされることもあり、きれいな歌声がエントランスに響きます。前年度3月に卒園された方々が、『支える会』としての引き継ぎを行ったのもこの場所でした。会議室ではなく、きれいな緑に囲まれたこの場所で行うことで、自然と話にも花が咲き、学年を超えた交流もできたようです。

「エントランスde KINJOカフェ」では、何気ないおしゃべりの中から子育てのヒントや情報をもらうこともあり、子どもたち同様、『縦』の関係が紡ぎ出されています。この場所が保護者のみなさんが気軽に集い、心が和む交流の場になっていくことを期待しています。

緑が広がる開放的な空間で、おしゃべりも弾みます。

みんな、いい笑顔だね！

ボールを使って、遊びながら、楽しみながら、身体を動かします。

転がらないよう、全身を使ってバランスを取ります。

15年ぶりに来園した卒園生親子と歓談。幼稚園時代の懐かしい思い出話に時間を忘れるほどでした。

高校調理室に実習機器を寄贈いただき、感謝状贈呈式を行いました。

このたび、リンナイ株式会社様から同社のフラッグシップ機器である最新ガスコンロとオーブンレンジを11セット寄贈いただきました。また、設置にあたり、金城学院みどり野会様と金城学院高等学校PTA様にもサポートいただきました。それに伴い、4月17日（月）、本校調理室（世光館１階）にて感謝状贈呈式を行いました。

贈呈式には、リンナイ株式会社代表取締役会長 林謙治様、金城学院みどり野会会長 林小夜子様、金城学院高等学校PTA副会長 小川晃範様にご出席いただき、本学院の戸苅創理事長と野々垣愼治中高校長から、お礼の言葉と感謝状を贈呈しました。

今回寄贈いただいた調理機器は、家庭科の調理実習や家庭科クラブの活動など、本校の教育活動に有効に活用させていただきます。リンナイ株式会社様、金城学院みどり野会様、金城学院高等学校PTA様に、学院として心より感謝いたします。

寄贈者を代表して挨拶される
林謙治代表取締役会長。

リンナイ株式会社林謙治取締役会長夫人の林薫様と長屋頼子金城学院学院長補佐は、金城学院中学、高校、大学の時からの友人。本校の調理実習機器が劣化し、リニューアルが必要なことから薫様に相談したところ、「私は金城の卒業生ではなく、今も金城生。だから協力したいわ。」と、快く申し出を引き受けてくださったそうです。

生徒を代表して謝辞を述べる
原梢さん（家庭科クラブ部長）

「一生懸命料理を習ってくださいね。」
贈呈式終了後、家庭科クラブの生徒たちと
談笑する林取締役会長と薫夫人。

最新の調理機器を活用して料理の知恵と技を伝えたい。

家庭科教員　池内 孝枝

調理実習は生徒たちが楽しみにしている授業のひとつ。でも、この3年間はコロナ禍で全くできず、もどかしい思いをしていました。それがようやく再開できるようになり、その上、こんなに素晴らしい調理台を寄贈いただき、まさに二重の喜びです。料理のスキルを身につけることは、男性も女性も関係なく、生涯にわたって健やかに生きるための力を培うこと。いずれ生徒たちが社会に出て仕事を持ったとき、あるいは結婚して共働きをする、子育てをするときに役立つような、効率よく、時短でできる料理も教えていきたいと思っています。幸いなことに、寄贈いただいた調理機器には時短や効率アップなど、最新の機能が搭載されています。大いに活用して、料理の知恵と技を身につけてほしいと願っています。基本がしっかりできていれば、あとは応用が効きますから。

料理はもちろん、パンやお菓子づくりにも挑戦したい！

私たちの学年は、中学3年生の時からずっと調理実習ができませんでした。2年生の最後に再開したものの、喋りも試食も禁止。やっと従来の調理実習、しかもピカピカの調理機器を使って実習ができるようになり、ワクワクしています。調理台は広くて作業しやすいし、ピンクのコンロも可愛くてすごく気に入っています。オーブンもグリルもあるので、後輩たちと女子高生らしい可愛い料理やお菓子も作ってみたいと思っています。調理機器を寄贈してくださった皆様、本当にありがとうございます！

家庭科クラブの部員
たち（3年生）。

Junior High School　金城学院中学校

English Central Award 2023で本校の３チームが入賞しました。

オンライン英語学習サイトEnglishCentralのJapan Officeが主催する動画投稿コンテスト「English Central Award2023」で、本校の1年生（現2年生）が3位（１チーム）と特別賞（２チーム）を受賞しました。そこで、指導担当者の梅田宗史朗先生と、見事入賞を果たした３チームの生徒に、入賞の喜びや動画作成時のエピソードを話してもらいました。

英語の授業にEnglish Centralを活用

EnglishCentralは動画を見ながら英語学習ができるオンライン教材で、本校では英語の授業で活用。生徒たちは、動画を見ながら英語のリスニング力や語彙力、スピーキング力を身につけていきます。動画は生徒たちが好きなアニメや動物ものなど身近なテーマが多く、英語が苦手な生徒も楽しんで英語学習に取り組めます。動画投稿コンテストEnglish Central Awardは、EnglishCentralを利用している中学生以上の生徒・学生を対象に毎年３学期に行われるもので、本校の生徒がこのコンテストに応募したのは今回が初めて。高校生も同じ土俵の上での勝負で中学1年生の３チームが入賞を果たしたのは快挙です。

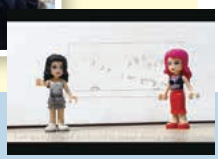
英語教員
梅田 宗史朗

動画で世界中のユーザーにメッセージを発信

English Central Awardの動画作成の条件は、1分未満のオリジナル動画であること。音声はグループに所属する生徒により吹き込まれていること。EnglishCentralの世界中のユーザーが見ることを意識したトピックであり、見る側に伝えたいメッセージが明確に伝わるか、気持ちが込められているか、ということも、審査の大きなポイントです。動画作成に関しては、テーマを決めることからストーリーの作成、スライドの素材探しや作成、ナレーション、動画の編集まで、すべて生徒たちが自力で作成。苦労しながらも、皆、素晴らしい作品を作り上げてくれました。なお、今回受賞した３作品はEnglishCentralに動画コンテンツ化され、世界中のユーザーに発信されています。

第3位「Tourism in Aichi」

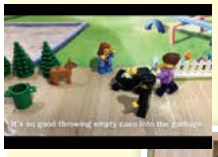
愛知の観光をテーマに選んだのは、英語の授業で“Going to“を習っていたときで、この“Going to“を使って何かを表現したいと思い、「愛知へ観光に行こう」というテーマを設定。選んだ素材は、味噌カツ丼と熱田神宮。美味しいグルメも歴史や伝統もある「愛知を目一杯楽しんで！」というメッセージを込めました。大変だったのは編集作業で、きちっと1分間に納めることに苦労しました。受賞はもちろん、作品作りを通して４人の絆が深まったことも大きな収穫です。



前列左から鈴木理子さん、杉原梨乃さん、
後列左から中村朱那さん、森上美音さん（2年生）

特別賞「私たちの未来を美しく」

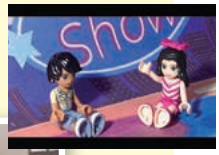
中１の英語テキストで学んだことをヒントにテーマを考案。男の子が公園のゴミ箱に空き缶をポイ捨てし、姉に叱られるというストーリーで、ゴミの分別が省エネや環境保全につながるというメッセージを込めました。レゴを使っていろんなシーンを作ったのですが、苦労したのは、ゴミ箱に缶を投げ込む瞬間を撮影するとき。何回もトライして、ようやく缶が宙に浮いた一枚を撮ることに成功しました。これで終わらせないよう、これからも仲間と一緒に英語の勉強を頑張ります！



左から
森本真央さん、
森本珠美さん
（2年生）

特別賞「１分間トークショー」

有名、無名にかかわらず、さまざまな職業の人をスタジオに招いて、仕事のことや人生を語ってもらう、１分間のトークショー。今回は、アメリカの探検家にスポットを当て、レゴにあった架空の動物を使って、新種の生物を発見したことを語ってもらうというストーリーにしました。中1で入賞するのは難しいのでまずは挑戦しよう、という気持ちで参加したコンテストで賞をいただき、本当に嬉しいです。もっと力をつけて、来年もコンテストにチャレンジしたいと思っています。



左から
神原育実さん、
石原杏奈さん、
大野瑞季さん、
内之浦愛さん（2年生）